

令和 5 年 3 月 1 3 日

保護者の皆様へ

廿日市市立四季が丘小学校
校長 伊豆田 智子

令和 4 年度学力定着状況調査の結果について

早春の候、保護者の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より本校の教育活動にご理解ご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、日頃の単元末テストでは計れない児童の学力の定着状況を分析し、個に応じた支援及びさらなる定着を図るという目的で1月に実施しました令和4年度学力定着状況調査の結果についてお知らせいたします。

国語		1年	2年	3年	4年	5年	6年
正答率 (%)	四季小	84.0	78.0	79.8	73.5	77.0	82.0
	全国	74.6	82.0	74.4	72.0	72.7	74.5

算数		1年	2年	3年	4年	5年	6年
正答率 (%)	四季小	90.8	67.9	76.0	69.1	64.5	88.3
	全国	82.0	70.0	71.1	68.3	60.0	71.6

【国語科】

○「書く」活動に成果…昨年度課題であった「書く」活動では、目標値を達成することができました。

△「情報と情報をつなげて表現する」活動に課題

資料と事例等を関連付けて文章で表現する活動に課題がありました。よって、自分と友達の考えや説明的な文章の事例を比べ、同じところや違うところを探しながら、表や図を使って整理する授業を取り入れます。また、自分の考えを分かりやすくするための資料を探して整理したり関係付けたりして説明できる場の設定をします。

【算数科】

○「図形」の領域に成果…昨年度課題であった「図形」の領域では、目標値を大きく上回りました。

△「量と測定」「割合」の領域に課題

低・中学年では単位をそろえて計算する問題等に、高学年では畑の面積に対する米の取れ高の割合を求める問題等に課題がありました。身の回りの量を実測させるなど、活動を中心に量感覚を養います。測定方法や結果を振り返り、実生活で活用できるように意図的に仕組みます。家庭でも、量感覚が身に付くように物を分ける等、一緒に取り組んでみてください。「割合」については、比べる量と基にする量は何なのかを意識させ、問題文や活用に取り組ませます。

今年度は、授業で表現する場を意図的に設定したため、児童に表現力が身に付き、「書く」力や活用の問題で成果を上げています。今後は、授業形態や教材教具の工夫、ICTの効果的な活用を取り入れたりしながら、基礎・基本の徹底を図り、すべての子どもが楽しく安心して学び合うことのできる「分かる・できる」授業を展開させていきます。課題が明らかとなった項目については、今年度中にさらなる指導を行い、次年度へつなげます。

本日配付したの個人票には、国語科・算数科の教科別の正答率(%)と評価、観点別評価のグラフが掲載されています。特に、観点別評価のグラフからは、お子様の得意な領域・課題のある領域が一目でわかります。

よいところは自信をもってさらに伸ばし、課題となっているところは意識して重点的に取り組むなど、今後の家庭学習の参考にして下さい。家庭学習については、進級するにつれて、家庭学習時間だけでなく、内容や質の充実も目指しています。学力は授業と家庭学習の両輪で定着します。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。